

# Κ Ο Σ Μ Ο Σ

Vol. 14, No. 4 (No.48) 1980. 1. 10

## 《本学に学んだ人々》—13—

元日本大学教授 秋庭太郎

私は昭和と改元したころ東洋哲学を学ぶべく、教授陣の魅力から本学に入学、旧制大学院を卒業、六年間通学しました。先生には錚々たる学者が居られ、四書五経から七言絶句の初歩的な詩作法から、易のたてかたまで教えていただきました。内田教授、足利教授、小見教授から国文担当の長教授は何れも和服袴姿で二階建木造校舎の教壇に立たれ、国史担当の笹川教授も大学祭のような時には袴に白タビでした。学生も袴着用の着物で登校するものも少なく、わずかな女子学生たちは殆どが和服の袴姿でした。私も教練のある日以外は和服で通しました。また私は学年末試験に概ね筆と墨汁を持参して答案を書きましたが、五十年前の話ですから総べてがのんびりして居りました。哲学専攻の学生でありながら私は文学や芝居寄席が好きでありましたので、大学の附属図書館の小さな二階の閲覧室で文芸書を読みふけったり、また大学の記念祭か何かの時に、大講堂で小山内薫作「息子」を芝居好きの学友たちが上演した際、秋は裏方となって木造建の大講堂の天井から紙の雪をふらせたこともありました。今となっては何もかも懐かしい思い出であります。学友との交も今は全く絶えてしまいました。私の哲学専攻は結局ものならず、文学演劇方面の研究で生涯を過ごしてしまいました。馬齢七十二に及んだ今日、私はおそまきながら漢籍を繙いて居りますが、行詰るたびごとに大学時代に諸先生からなぜ積極的に指導を受けなかったのかとくやまれもします。

著書	明治の演劇	昭和十二年	中西書房
	東都明治演劇史	昭和十二年	中西書房
	三題断考	昭和二十六年	私家版
	日本新劇史上下	昭和三十年、三十一年	理想社
	考証永井荷風	昭和四十一年	岩波書店
	永井荷風伝	昭和五十一年	春陽堂書店
	荷風外伝	昭和五十四年	春陽堂書店

### —秋庭太郎先生について—

秋庭先生は明治45年5月生まれ。昭和4年東洋大学専門部倫理学東洋文学科卒業、続いて昭和5年、大学部支那哲学東洋文学科を卒業。さらに旧制の大学院を御卒業なさいました。戦後、日本大学の図書館司書となり、傍ら芸術学部で演劇学を教えておられましたが、昭和45年頃から、商学部教授として教鞭を取られるようになりました。昭和52年御勇退後は、荷風研究等に専念なさっていらっしゃいます。上記著作のうち、「日本新劇史上・下」は芸術選奨文部大臣賞、「永井荷風伝」は読売文学賞を受賞しています。「荷風外伝」に関して、「読売新聞」昭和54年8月20日夕刊4面及び「毎日新聞」昭和54年9月3日6面に掲載されています。御参照下さい。(編集委員会)

《本学に学んだ人々》—13— 1  
 教員が語る試験期の図書館利用法 2  
 東洋大学図書館業務報告 6  
 図書館規則の改正について 8  
 館内だより 8  
 編集後記 8

## 教員が語る

### 試験期の図書館利用法 1

#### 図書館で何をするか

社会学部教授  
広瀬 英彦

年があけた。レポートの作成に、定期試験の準備にと、図書館がこむ季節である。それは大いに結構なことであるが、図書館に入りさえすれば、自然に事がわかるわけではない。うまく利用すれば十分な成果をあげることができるが、使い方がへただと、なにほどの収穫もえられない。そこで図書館をどう活用したらよいか、そのノウハウが問題となる。

まず当然のことだが、何を調べたいのかをはっきりさせなければいけない。テーマすら不明では、利用のしようもない。その半面、課題ははっきりしているが、どこから手をつけたらよいかわからないような場合にも、図書館は役に立つ。「犬も歩けば棒にあたる」というが、図書館は、その「棒」がやたらころがっているところである。あれこれ本をひっくりかえしているうちに、これだと思えるものに行きあたることも少なくない。だから、なにはともあれ、図書館を訪れてみるのがよいともいえる。

とにかく、調べたいものがある。最初に百科事典をひいてみよう。何種類もの事典がそろっているから、全部読んでみる。専門事典もひいてみる。これで、大まかな知識・材料がえられるはずである。だが、これだけではまだまだ不十分である。

そこで開架書庫に入る。ここには基本的な参考書が並んでいるから、自分の専攻分野の書架を捜しあて、ゆっくりと全部をながめてみる。すると、これはと思う題名の本が必ず何冊か見つかるはずである。教員が紹介した本もあるかもしれない。それらを手にとってページをめくってみる。これならいけると思ったら、カウンターで借出しの手続きをすればよい。

さらにより深く調べたいとなると、閉架書庫の

本を利用することになる。今度はカード目録をくってみて、申しこめば、求める本を手にすることができる。当該の分野にどんな参考書があるか知りたいときは分類目録を使い、書名や著者名がわかっているときはそちらから攻めればよい。

これが図書館の最低限の利用法だが、カードのひき方ひとつ、慣れないとうまくはいかない。そのため、ふだんから図書館に親しんでおくことが必要だが、とりあえず、わからないことがあれば、係員にどんどん聞くのがよい。係員はみな専門家である。これに頼らない手はないし、またそれが学生の特権でもあると思う。

## 教員が語る

### 試験期の図書館利用法 2

#### 「学習場所」と「図書の館」

経営学部助手  
柿崎 洋一

学生は12月中旬から一切他のことを放棄して、試験準備に没頭する。この眼前の目標に対して一定のプランを策定し、その勤勉な遂行によって一つずつ試験を克服するのが通例である。それは学生生活における人生の事業とも称されている。試験に対する態度やプランは、個々の学生によって異なるものである。しかし、大学図書館の利用がこの試験準備にとって重要な役割を果していることは、否定し得ないであろう。

大学図書館の学生利用には、二種類の視点が含まれていることに着目したい。第一は学習場所としての利用であり、第二は図書の「館」としての利用がこれである。前者は、試験準備の時間的・空間的過程に関係する。そこでは、閲覧室の空間が何を区分しているのかを知り、その時間的利用度を経験的に加味して自分に適した場所を定めることが大切であろう。こうした閲覧室の規則的利用は、試験時の生活にリズムとバランスを与える。よく図書館への往復時間を惜しむ人がいるが、そのくせ自宅や下宿でブラブラと暮してしまい、往復の時間を超えた無駄をしている場合が少なくない。そこで、早朝に席を取り、夕方まで自分



に適した変化をつけ、ゆとりある図書館利用を考えてみることは無駄にはならないであろう。後者に関して、試験時には学習図書の館外貸出に一定の制約が加わる。そこで、安易に複写作戦を実行しがちである。しかし、複写書類等無雑作に取り扱い、内容的印象の薄いことは誰でも感じることである。この傾向はノート類に著しい。従って、試験時にはできるだけ館内で読み、自分でノートを作成するのがよいであろう。この場合にも、前者同様必要な図書は、早朝に入手することが重要である。

この様に、学習場所としての利用と図書の館としての利用をいかにして自分に適したプランに導入するかを工夫することが大切であろう。

#### 教員が語る

#### 試験期の図書館利用法 3

### B6カードの活用

情報工学科教授  
中村 慶一

岩波新書の一冊に梅棹忠夫の「知的生産の技術」がある。サブノートの代わりにサブカードとでも云うべきB6版のカードの利用をすすめたもので、筆者は10年前この本に触発されているいろいろなカードを遍歴し、厚すぎず薄すぎず裏も使用できる手頃なカードとして、KYODAI システムカード No.541/C とコクヨB6シカ/2にたどりついた。

これをギャングパンチを使って13の孔をあけCO-OPカードホルダーなどに入れて使っているが便利なことこの上ない。(孔のあいているものをさがす手もある)

講義におけるノートは、いわば野帳に当り、この中から項目ごとに、あるいは、さらに総合項目カードで体系化したカードをつくり、その後本などで知った新しい知識を色が変わりのボールペンなどで行間に書き足したり、キーワードを赤でアンダーラインしたりして、要するに知識の整理をしておくわけである。

このように手に覚えさせた知識は目だけを通じ

て入った情報より定着性が良く、講演を頼まれたときでも1枚10分位の割りで余分をみてカードを持って行くだけで大体話を進めることができる。

試験というの也要するに如何にその主題に対する知識が整理されていて要点を外さずに論ずることができるか、あるいはその準備がなされたかをテストすべきもので、その意味では試験準備とはこのようにして作られてきたカードを再整理し、そのポイントを認識し、同じ主題に対する異った角度からの見方を補足しておくことであろう。

このような種々の情報源は第1次には自分の、自由にアンダーラインできる本であろうが、個人の資力とスペースの限界から、第2次には図書館ということになる。

しかも図書館は本を読む環境が出来上っているところであるから、試験準備期にはこのようにして作って来たカードを中心に、その再整理補足を行う場所ということになる。そうしてその補足のためには後日のためにその出典を欄外に記入しておくと思わぬ役に立つことが多い。本文を読んでB6カードを購入した人達の第1枚目には勿論梅棹さんの文献とKOΣMOΣの本論文が記入されることになろう。

#### 教員が語る

#### 試験期の図書館利用法 4

あわてても遅いので……

教養課程教授  
太田 勇

教師が学生をまえにして改まった口調になれば、お説教が始まる。たいてい本をよく読めという。しかし、この科目の試験に合格するには、どの本のどの個所を、どの程度まで読むべきかを説明することはまずない。そのような下賤な話を、真理探究の場たる大学でできるか、と教師は考える。実はそれをもっとも知りたい学生も、もし教師がそんなことを言えば、大いに軽蔑する。こまかい指示を与えることなく、教師は膨大な量の書物を学生に読めという。学生が素直に従えば、図書館はたちまちパンクするわけだが、幸いそうい

う事態は起らない。少なからぬ指定図書が棚に眠っている。

一般に、特別な注釈なしにたくさん参考文献が紹介されるときは、それを読まなくてもとくに困らないのがふつうだ。困らないとは、ただ卒業するだけならできるという意味で、その結果、東洋大学が世間で低く評価されたり、学内で図書費の予算が削減されたりして、あとあと多くの人に迷惑をかける可能性は大きい。

どんな時代でも、すべての学生があらゆる教科に興味を持ち、それに旺盛な勉学意欲を燃やすことは期待できない。地理学を専攻しない学生が、それで飯を食っている教師の要求に、いつも全力をあげて応えるわけには行かない。効果的な省エネルギーを考える必要がある。試験期の図書館利用法は、まず適切な少数の書物を見つけることから始まるだろう。ふだん勉強しない者には何が適切なかわかるまいから、図書館へ出かけていたずらに混雑をひき起こすことをすすめない。いつも真面目に勉強する学生には、いまさら読むべき本を指示する必要がない。中途半端な者に対しては、教師が真剣になろうと思わない。したがって、冒頭でふれたように、教師は抽象的で高邁なことを語ることになる。

それではひどすぎるという人にはこう答えよう。早起きをして図書館の座席を確保しなさいと。学生数に比べ収容力の小さい本学図書館では、これは不可欠な行動だ。それに、早く行かなければ借りたい本がなくなってしまう。いつも図書館を利用していると、館員はより親切にしてくれるし、さまざまな読書相談にも積極的にのってくれる。この接触の利益が一番大切なはずだ。

――教員が語る――

試験期の図書館利用法・番外

資料探しの  
能率アップ作戦

図書館参考係

試験期になると図書館は、ふだん図書館に来ないひとも押しかけ、大混雑になります。あまり混

雑していないときは利用方法や、図書請求票の不完全記入の場合、何かの本を探している場合などについて、図書館員はできるかぎりていねいに応じています。しかし混雑期になりますとなかなか十分に手が回らないことが多くなります。こういう時期に、使いなれているひととそうでないひととの差がでてきます。何ごと日頃のトレーニングが大切というものです。いささかドロナワですが上手な資料の探し方を述べておきます。

1. 資料名をはっきりさせる——資料名をはっきりしないことには、資料を探すことはできません。

イ. すでに資料名がわかっている——著者名・書名・雑誌名をヘボン式ローマ字に直し、辞書体目録か雑誌目録を順序よく、正確にひけば、めざすカードが出てきます。カード左上の請求記号を請求票に正確に書いて係に出すか、開架の本であれば自分で探して下さい。

ロ. あるテーマの資料を探しているが、資料名がわからない場合——分類目録か件名目録(テーマを表した目録で、辞書体目録に入っている)を使って資料名をはっきりさせる。あとはイ.と同じ手順です。または文献目録を使って必要なものの資料名をはっきりさせたいので、辞書体目録をひいてください。

## 2. その他のポイント

イ. 請求記号を正確に書く。ロ. 著者・書名・出版年を正確にメモする。人間の記憶はあてにならない。ハ. 全集・双書・講座は第何巻が必要かを書く。ニ. 雑誌は何巻何号(あるいは何年何月)が必要かを書く。ホ. 雑誌には同じタイトルのものがふたつ以上ある場合がある。このときは出版社・出版年がわかると探しやすい。ヘ. 文献目録をみるときは、略語・略記号に注意し、わからなければ凡例をみる。

格言：急がば回れ、急がばカード。





## 各館だより

### 工学部分館より

武蔵野の雑木林を木枯らしが駆け抜ける今日此の頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。工学部分館では、去る12月1日から15日までの2週間、ロビーに雑誌の廃棄コーナーを設けてみました。この試みは、古くなってほとんどひとの目に触れることもなく書庫に眠っている雑誌に“もっと光を”ということで計画されたものです。最初は私達も半信半疑で、どのくらいの人達が利用してくれるだろうと心配しておりましたが、なんのなんの、驚くほどの大盛況で3日間で半分以上が処理されてしまいました。やはり、本というものは多くのひとに読まれるべきものであり、チリガミと交換されるものではないのです。そんな意味で、今回の試みは大成功だったと思います。しかし、まだまだ多くの本が何処か書架の片隅に埃をかぶって眠っているのではないのでしょうか？私達は、こんな本たちになんらかの方法で“光”を与えてやりたいと思っています。

(雑誌係)

### 朝霞分館より

朝霞校舎に通学している1・2年生の皆さん、お元気ですか？試験をひかえて、毎日毎日、一生懸命勉強している(?)ことと思います。がんばって勉強して1年生は2年生に、2年生は3年生に無事進級して下さい。

さて無事進級した時には、新3年生は朝霞とお別れして、白山校舎に通学することになります。未来の3年生となる皆さん、皆さんは白山校舎を知っていますか？そして、白山の図書館を知っていますか？朝霞分館では、皆さんが白山へ通学するようになって図書館へ行っても、**まごまご**しないように、白山の図書館の概要と図書の探し方の説明会を計画しています。

時期：1月中旬。

内容：1.白山図書館の概要。(スライド)

2.目録カードの引き方の説明。

試験をひかえ、図書館を利用する機会も多くなる今日このごろ、朝霞分館一同、皆さんの来館をお待ちしています。尚、説明会についてはポスターにて、また詳しくお知らせします。

### 白山より

#### 学内出版物収集に御協力を！

雑誌係では、学内で発行されている資料をより積極的に収集する事によって、東洋大学の足跡を形として残して行きたいと思っています。

そのためには是非みなさんの御協力をいただきたいのです。もし、あなたが東洋大学関係者で(いえ、たとえそうでないとしても)東洋大学内で出版されている雑誌をお持ちでしたら、1部寄贈していただけませんか。特に、**学生のみなさん**にお願いします。サークル誌、個人雑誌、その他何でもけっこうですので、図書館カウンターまで直接お持ち下さい。お待ちしております。

(雑誌係)

#### 学年末試験中の日曜開館及び館外貸出中止について

- 日曜開館日・時  
1月20日、27日、2月3日  
午前9時—午後5時
- 館外貸出中止期間  
1月21日—2月5日

#### 春休みの長期館外貸出について

- 貸出期間：2月6日—3月31日
- 返却日：4月10日、11日

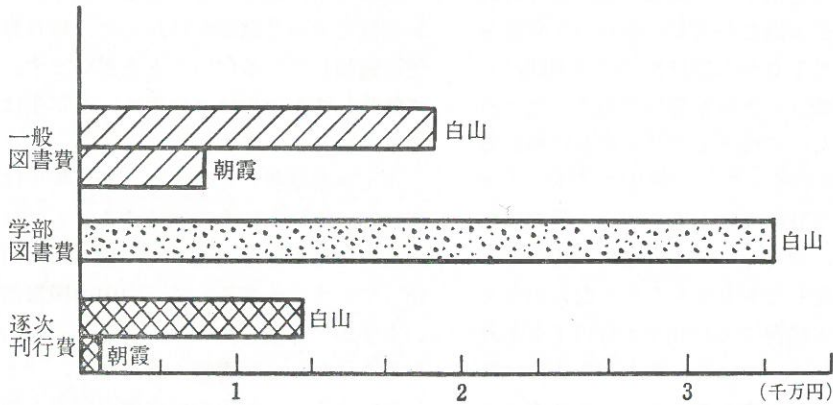
(注) 貸出冊数などその他くわしいことは後日掲示いたします。

(閲覧係)

# 東洋大学図書館業務報告

(昭和53年度学長報告より抜粋)

## I 学部・図書館図書費・逐次刊行物費



	白 山	工 学 部	朝 霞
一般図書費	19,062,842	} 24,000,000	8,857,775
学部図書費	34,183,612		—
逐次刊行物費	12,925,112		742,423

## II 参考業務

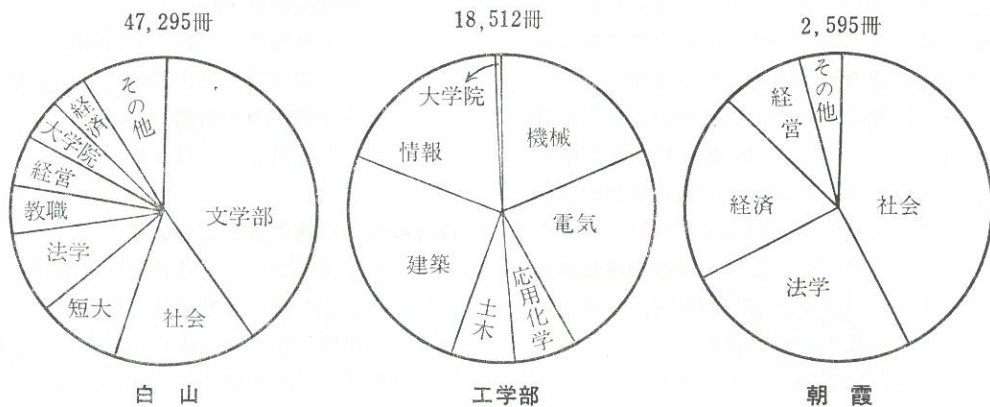
質問件数

3,782件

利用者別内訳

学 生	3,511	職 員	132
教 員	95	学外者	44

## III 館外貸出(総数及び学部別比率)



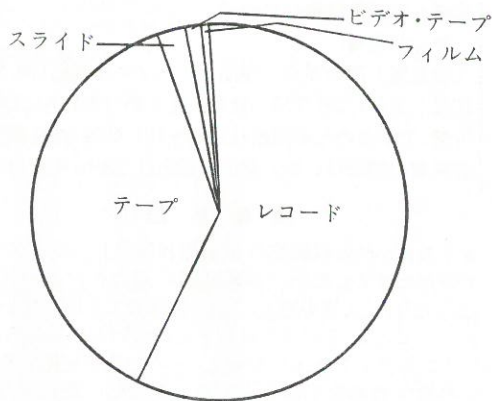
IV 雑誌・新聞所蔵数 (タイトル数)

		雑誌			新聞		
		白山	工学部	朝霞	白山	工学部	朝霞
購入	和書	504	649	226	11	6	10
	洋書	561	407	39	16	1	1
寄贈交換	和書	1,842	396	25	19	7	4
	洋書	113	3	0	0	0	0
合計		3,020	1,455	290	46	14	15

V 座席数

朝霞	工学部	白山	921席				
258席	198席	参考雑誌室	102席	第1閲覧室	208席	第4閲覧室	208席
		視聴覚室	20席	第2閲覧室	102席	第5閲覧室	60席
		共同研究室 (3室)	52席	第3閲覧室	129席	大学院生閲覧室	40席

VI 視聴覚資料数



レコード	2,499枚
テープ	1,583本
スライド	119点
ビデオ・テープ	37本
フィルム	30巻
計	4,257点

VII 蔵書構成

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	合計
白山	29,317	23,909	24,919	42,198	6,846	5,419	7,388	4,649	5,322	21,356	171,323
	6,106	9,818	5,838	41,252	3,724	3,659	4,792	829	3,179	11,122	90,319
工学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40,578
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29,856
朝霞	3,824	1,413	1,686	3,554	730	214	282	480	617	2,758	15,558
	111	3	9	32	22	1	0	1	30	40	249



## 図書館規則の改正について

本年七月一日付で図書館規則が改正されたことは大学広報などでご存じだと思います。その趣旨について、要点だけお知らせすることにします。大学における図書館の重要性は言うまでもないことですが、これまでわが大学では、言われるほどには重んじられる実態の裏づけに欠ける感がありました。これを改善して充実した図書館を形成する道を整えることは、図書館のことを真剣に考える大学人の積年の関心であり、歴代館長の苦心でもありました。その基本線は後藤辰男館長の時に取りまとめられました。そのうち館長公選制を定めた規定だけが部分的に先行して七十七年十二月に成立、実施され、それと相俟って図書館運営委員会を権威づけることを中心としたものが、今回の規則改正の眼目といえます。

新しい規則による運営委員会は、図書館に関する重要事項を審議、決定するについて、これまで以上に権威あるものとして学内で遇されることになっています。そして、それにふさわしく委員会構成も、所属別の選出にかかわる先生方と教学関係の各部局責任者と図書館現場職員の代表者として成り立っている。これは望ましい形で教職員一体となって責任をもって図書館を運営する方式を、一応確立したものといえると思います。あとは、大学の構成要因の主要な残る一部である学生諸君の希望や不満によく耳を傾けながら、図書館の内実を充実させて全学の負託にこたえる努力に励むことにつぎるだろう。館長、委員の任務が重くなったのと共に、職員に要求されるものいよいよ大きくなることもまた職員を奮起させ、研修に励ませることになるでしょう。この新規規則が導くものに刮目、期待を乞うことにしよう。

(館長・飯島宗享)

### 訂正

前号の記事中、不明瞭な箇所がありましたので、訂正を致します。

(vol. 14. No. 3)

P. 5 右側上から6行目 『皮』→『波』

## 館内だより

(54年10月12日～12月19日)

### ▶研修・分科会等◀

10.12 理工学分科会 10.13 書誌学分科会 10.17 分類分科会 10.31 閲覧奉仕分科会 11.1 書誌作成分科会 11.12 目録分科会 11.13 レファレンス分科会 11.16 私立大学図書館協会東地区部会 研究部会一地震と図書館一 11.17 書誌学分科会 11.21 分類分科会 11.22 逐次刊行物分科会 11.28 閲覧奉仕分科会 12.6 書誌作成分科会 12.10 目録分科会 12.13 理工学分科会 12.15 書誌学分科会 12.17 専門図書館協議会年末講演会 12.19 閲覧奉仕分科会・分類分科会

### ▶館内・外諸会議◀

10.18 工学部分館運営委員会 10・19 中国・四国地区、国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会(於松山商科大学図書館) 10.25-27 全国図書館大会(於東京文化会館他) 10.31 図書館運営委員会 11.14 工学部分館連絡会 11.27 図書館連絡会 11.28 図書館運営委員会 12.11 図書館連絡会 12.12 図書館運営委員会 12.14 工学部分館連絡会

### ▶来館者◀

12.8 東洋大学附属牛久高等学校父兄 12.19 阿部誠文氏(集英社)「図説日本の古典」に館蔵「松姫物語」を掲載依頼のため一

### ▶その他◀

視聴覚室主催映写会 作品:ルーブル美術館(10.31) 作品:道(11.28) 作品:青春の光と影(12.14) 工学部分館、工学祭のため閉館(11.15~19) 朝霞分館、視聴覚資料貸出開始(11.26) 朝霞分館会計(期中)監査(12.3)

## 編集後記

★「教員が語る試験期の図書館利用法」どの様に読んでいただけましたか。試験時期に発行されるコスモスは、毎年、人気が悪く、編集委員会でも困っていました。そこで、この号を計画する時にいかにしたら、学生に読んでもらえるかを考え、いろいろ案を出しあい、この様な特集をくむことになりました。教員の方々にも、好意的に原稿を寄せていただき、図書館員とは、又、違った角度から、よりわかりやすい図書館利用法を説明して下さいましたので、一層活発に図書館を利用していただきたいと思います。

★「各館だより」皆さん、いかがですか。同じ東洋大学で、白山、朝霞、川越(山手線、東上線沿線です)と三館に分かれていて、講義に関連した図書館しか利用できず、なかなか他の図書館を利用できる機会が少ないものです。各館共少しは、特色ある蔵書がありますので、この「各館だより」を読んで興味をもてたら、どんどん各館を利用して下さい。どの図書館でも、学生証を持っていれば、すぐに利用できます。